



## 第2回 学校運営協議会

## 和歌山さくら支援学校

令和元年8月28日（水）和歌山さくら支援学校において、第2回の学校運営協議会が開かれました。第2回は、エリアネットワーク構想について協議されました。エリアネットワーク構想には、①児童生徒が地域や人々と関わる機会を増やし、多様な生き方・価値観を知り、今の学びが社会生活につながることを実感させたい、②ソサエティ5.0の時代にむけて学校教育活動で変わるべきところと残すべきところを見極めながら新たな学校作りを行う、という2つのねらいがあります。具体的内容は、センター的機能を活かした校区内の学校との交流、キャリア教育に根ざしたさくらフェスティバルの開催、外部講師などの協力による作業学習の充実などです。学校運営協議会は校長の行う学校運営に積極的に参画し、社会に開かれた学校作り、地域と結びついた学校作りをともにすすめる組織です。今回、運営協議会の方々にさくらフェスティバルについて企画・進行をしていくうえでの色々な視点の意見をいただきました。

古井会長のあいさつ



運営協議会スタートの様子

大城校長のあいさつ



エリアネットワーク構  
想についての協議



地域との交流を活発にしたい、先生方の負担が大きくなりたくないか、先生の苦勞も多いが成果はもっと大きい、前進することに意味がある、PRの方法も考えて、接客の実習にも来てほしい、労働力としても期待するところは大きい、地域のいろいろなものを販売できるのではないかと、学校に来てもらう交通手段も考える必要があるなどいろいろな視点での意見が出て、活発な協議となりました。

学校目標の再確認について

『キラキラ輝く人になろう』という学校目標を具体的に進めていく上で、本年度は「あいさつをしよう」が候補に上がっていることについて、各委員から意見をもらいました。「あいさつをしよう」というテーマは昨年度も学校運営協議会でも取り上げられ、あいさつは社会へ出て行く上で基本となる大切なことだ、あいさつの仕方にもこだわってほしい（丁寧なお辞儀など）。あいさつをできない子には自分を知ってほしい、興味を持ってほしいというメッセージがある。教師同士からまずあいさつをさわやかに交わすことがたいせつだなどの意見をいただきました。